

# 建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-13-7  
電話(03)3259-8711  
FAX(03)3259-8730  
©日刊建設通信新聞社 2014



日綜産業の吊り足場「クイックデッキ」が、長野駅新駅ビルの大ひさし仕上用足場に採用され、施工性や安全性で高い評価を受けている。施工を担当している鉄建・大林組JVの河合和彦所長は、「工期が厳しい中で、上部と地上の作業を同時にできる」ことも、特長の1つに挙げている。

## 日綜産業のクイックデッキ

### 施工性、安全性が高評価

クイックデッキはことし6月に発売後、既に15現場で納入・稼働しているほか、年内に10現場で採用が決まり、100件程度の引き合いがある。吊った状態で床を先行して設置するため、安全に組み立てられる。床ユニットのシステム化によって、組み立て作業も簡単だ。

大ひさしは、JR長野駅善光寺口に建設している新駅ビル側に設置中。クイックデッキは1600平方メートルを納入する。東工区の800平方メートルは設置が完了、9日から西工区の設置が始まっている。最初に5桁角のクイックデッキを地上で組み立

## 長野駅大ひさし工事に採用

て、下から引き上げて鉄骨に吊ったあとは、空中で設置していく。

河合所長は、駅前広場の上空で人通りが多い現場のため、「(ひさし)落とすこともたいへんなことになる」と指摘する。クイックデッキは床がフラットで

すき間もないため、小さなボルトなども落下しない構造になっている。河合所長は、鉄骨を製作する段階で吊り治具を取り付けるピースの位置や数を決める必要があることから、「(導入する際は)事前の計画をしっかりと立てなければいけない」と指摘する。

組み立て作業をしている高野造園土木建設(長野県佐久市)の松本純一工事主任は、「初めて設置するが、安全性が確保されていて、在来工法と同じ人数でもスピードが速い」とメリットを挙げる。大谷総業(松山市)の中谷伸二専務取締役も「先に(床が)跳ね出してできるので安全性が高い」と評価する。

従来の足場と比べ組み立ては2倍、解体は3倍のスピードアップが実現できる上、作業人数も2分の1から3分の1に削減することが可能だ。クイックデッキは、日綜産業が米最大手の仮設メーカー「セーフウェイ社」と、日本で独占販売の業務提携をして、レンタル・販売している。



